

2013年8月20日

報道関係各位

ニッポンの研究力を考えるシンポジウム (Science Talks) 委員会

日本の研究力を語る新しいプラットフォーム、Science Talks 開始。

第1回大会「ニッポンの研究力を考えるシンポジウム ～未来のために、研究費を今どう使うか？」を10月19日に開催！

ニッポンの研究力を考えるシンポジウム (Science Talks) 委員会は、日本の科学力・研究力について考える新しいトークイベントとディスカッションのためのプラットフォーム、Science Talks (サイエンストークス) を立ち上げました。その第1回大会として、2013年10月19日(土)、東工大蔵前会館くらまえホールにて、「ニッポンの研究力を考えるシンポジウム～未来のために、研究費を今どう使うか?～」を開催します。

未来の日本の研究力について考えるプラットフォーム、Science Talks を開始

Science Talks (サイエンストークス) は、「ニッポンの研究力、このままではいけない!」と考える研究者のための新しいディスカッション・プラットフォームです。オンラインによるコンテンツ配信、ディスカッション、シンポジウム等のイベント開催を通じて、日本の研究力を盛り上げるための具体的なアイデアを日本の研究者の皆様と一緒に考える場として立ち上げました。

日本の近年の研究論文出版の動向を見ると、日本の研究力は欧米諸国をはじめ、着々と力を付けてきている中国などのアジア諸外国に対し伸び悩んでいます。日本の研究は、これからの競争を乗り越えていけるだけの十分なスタミナを備えているのでしょうか。次のおよそ10年、20年、世界経済がダイナミックに変化する時代の中で、世界をリードする科学技術立国として、研究者や企業がイノベーションを出し続けていける環境に、果たして本当にあるのでしょうか。

そこで、日本の研究力を真剣に考える研究者、有識者が集まり、「ニッポンの研究力を考えるシンポジウム委員会」を開始。その議論の場として Science Talks (www.sciencetalks.org) という新しいプラットフォームを立ち上げました。当ウェブサイトとシンポジウム開催を通じて、問題意識を共有する研究者のみなさんとなつながら、研究分野や立場の垣根を越えたみなさんを一同に集めて議論することで、未来への解決策を探ります。

参加型イベントの第1回テーマは「研究費」

第1回のシンポジウムのテーマは「ニッポンの研究力を考えるー未来のために今研究費をどう使うかー」です。国としての基礎研究力、つまりは論文数や論文引用数といった研究アウトプットの量と質を上げるためには、研究者の能力、研究環境、教育、コミュニケーション力など、様々な問題が

複雑に絡んでいます。それらの問題のなかで、第1段にふさわしい議題として、「研究費と研究評価」を取り上げます。研究に先立つもの、それはやはりお金の問題です。研究費はいわば研究アウトプットへの先行投資。日本の研究費総額は毎年微増しています。にもかかわらず、日本の研究者のみなさんの多くが研究費が足りなくてやりたい研究ができないと感じています。果たして日本の研究費の総額はそもそも足りているのか？ 必要なところにバランスよく配分されているのか？ しっかりとした指標に基づいて実力のある研究者が評価され、研究費が分配されるシステムになっているのか？

第1回シンポジウムでは、「ニッポンの研究力を上げるためには、まずは研究費の問題を解決するしかない！」と考える5人の有識者（研究者・大学経営者と、文科省・財務省の政策立案者）をスピーカーとして迎えます。このイベントは識者の方々の意見を聞くだけの場ではありません。当日ライブストリーム中継を予定しており、オンラインの参加者、会場の参加者、スピーカー全員で、問題意識を共有し、幅広くたくさんの方の意見を集めるための完全参加型のイベントになります。詳しくは Science Talks 公式サイト www.sciencetalks.org をご覧下さい。

<イベント詳細と参加申し込み方法>

日時：2013年10月19日（土）13時～17時

場所：東工大蔵前会館 くらまえホール

参加方法：ウェブサイトより申込み可能

お問い合わせ：contact@sciencetalks.org

○Science Talks 公式ウェブサイト：www.sciencetalks.org

○Science Talks 公式ツイッター：[@ScienceTalks_JP](https://twitter.com/ScienceTalks_JP)

主催 ニッポンの研究力を考えるシンポジウム(Science Talks)委員会

共催

カクタス・コミュニケーションズ（英文校正エディタージ）<http://www.editage.jp/>

科学新聞社

ScienceTalks
Challenging norms, driving change
by CACTUS

ニッポンの研究力を考える。

ニッポンの研究力
本当にこのまま
イイのか?

日本の研究・技術開発力は、戦後日本の経済発展を支える上で大きな役割を果たしてきました。しかし近年、日本の研究者の論文投稿数、出版数は諸外国に比べて伸び悩んでいます。

日本の研究力を研究者の皆さんと一緒に考える新しいプラットフォーム、サイエンス・トークスでは、第一回大会で日本の研究力を底上げするための「先立つもの」として研究費の問題を取り上げ、識者の皆さん、参加者の皆さんと一緒に具体的な解決策を探ります。



詳細・参加申し込みはウェブサイトから
www.sciencetalks.org



@ScienceTalks_JP

#ニッポンの研究費で意見求ム!!

主催:ニッポンの研究力を考えるシンポジウム (Science Talks)委員会

共催:カクタス・コミュニケーションズ株式会社(英文校正エディター) / 科学新聞社

CACTUS ed!tage

激論「未来のために、研究費を今どう使うか？」

日時:2013年10月19日(土)午後二時~午後五時

会場:東工大蔵前会館くらまえホール

登壇者



中部大学
理事長兼総長
敷吉 厚夫



政策研究大学院大学
専門員
小山田 和仁



財務省
国際局開発政策課長
神田 真人



鈴鹿医療科学大学
学長
豊田 長雄



文部科学省
研究振興局 大臣官房審議官
塚山 豊



藤田保健衛生大学
教授
室川 剛